

第 25 回 日本医療薬学会年会

演題：C 型肝炎 2 剤併用療法（ダクラタスビル・アスナプレビル）導入時の薬剤師の介入

演題分類：5 病棟薬剤業務

キーワード：C 型肝炎、DAA（Direct Acting Antivirals）

鹿島彩絵 垣尾尚美 結城沙英子 植木彩 若林よう子 土井本和久 瀬川和子

國東ゆかり

兵庫県立加古川医療センター 薬剤部

【目的】 インターフェロン（以下 IFN）フリーの DAA（Direct Acting Antivirals）であるダクラタスビル・アスナプレビルは IFN 不適格・不耐症例、前治療無効例に対して 2014 年 7 月に承認された。IFN を用いた治療と比べて、副作用が少ないとされている一方で、相互作用が多く注意が必要である。そこで、治療効果、副作用、相互作用の有無等の状況を把握し、薬剤指導管理業務に活かすため、2 剤併用療法の実態調査を行った。

【方法】 2014 年 11 月から 2015 年 3 月までに 2 剤併用療法の導入を行った 22 人を対象とした。2 剤併用の使用状況、治療効果、副作用、併用薬については電子カルテを用いてレトロスペクティブに調査を行った。

【結果】 今回の調査において、併用禁忌の薬剤が持参薬に含まれていた症例は 1 例で、対象薬はカルバマゼピンであった。患者はふらつきに対してカルバマゼピンを服用中であり、病棟薬剤師より医師に併用禁忌について情報提供を行った。その結果、カルバマゼピンは服用中止となったが、中止後にふらつき等の症状は認められなかった。また、副作用が原因で治療中止となった症例は 1 例であった。治療開始後、AST、ALT の上昇が認められ、治療開始 5 週で中止となった。治療中止後は肝庇護薬の投与を行い肝機能値は正常に戻った。

【考察】 2 剤併用療法は相互作用の多い治療であるが、当院では全例入院で導入し、開始前に病棟薬剤師が併用薬の確認を実施して医師に情報提供を行っている。副作用の少ない薬剤であるが治療中止例が認められたことより、治療開始時の服薬指導は重要である。特に、治療成績の向上とウイルスの耐性化を防止するために服薬アドヒアランスを維持すること、相互作用について理解を促すために患者教育を行うことが必須である。今回の調査結果を得て、今後も安全な薬物治療と的確な服薬指導に活かしていきたい。また現在、治療が終了していない症例についても継続調査し報告する。

(782/800 文字)